

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 1F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kaniztrust&JigyosyoCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町2-1		
訪問調査日	令和3年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや北にあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。平成14年12月開設。館内の床は数年前に張り替えを行い、照明もLED化。約20年の歴史と新しい雰囲気を持った施設です。利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持っておられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、(コロナがなければ)清涼寺で行われるお松明、五山の送り火鑑賞会。嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった地域のイベントから、定期開催のバイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベント楽しんでいただく事ができます。「穏やかに安らぎのある暮らし」「心遣いや気配りの生活」「ゆったりと自由な時間」「地域と生きる私たち」という理念に恥じないように支援をしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットからなる当該施設は、嵐山にほど近い緑に囲まれた嵯峨という風情ある観光地に位置しています。広い敷地内には果樹園があり、入居者は散歩を兼ねて収穫を楽しんでいます。20年近く自治会に加入して、地域の一員としての役割を担ってきましたが、コロナ禍の中、地域行事や地域の祭り、バイオリン演奏会など数々のボランティアによるイベントの開催は中止を余儀なくされています。施設からは五山の送り火の1つである鳥居を間近に見ることができ、送り火当日は家族の交流を目的とした鑑賞会を催し、家族と共に会食を楽しんでいました。開設当初から、3食手作りの食事を提供し続けており、毎日食材を見て献立を考え、食事を味だけでなく見た目でも楽しめるよう支援しています。入居者のできることを大切に、毎日職員と食事の準備などを協働して行うことで自立に向けた支援に努めています。また、趣向を凝らした季節の飾り作りにも力を入れており、ちぎり絵や細かな折り紙を重ね合わせて作る作品は、入居者の五感への良い刺激にもつながっています。さらに、簡易陰圧装置を各階に設置しており、感染症対策の充実を図っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかで安らぎのある暮らし、心遣いや気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念を掲げています。職員は毎日、朝礼で会社の理念とセンター独自の理念を唱和し、意識するようにしています。	昨年会社の理念が「世界で一番仲間を大切にすチーム」に変更されたことで、職員会議で事業所の理念を再検討したところ、現行のままの事業所理念を継続することに決めました。毎日朝礼で理念を唱和することで職員への意識づけを行い、毎月のフロアミーティングでも理念の周知に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも、長年入っており、回覧板がまわってきたり、地域の保健委員を担当し、献血のお手伝いをしたり(コロナにて中止中)と、日常的に交流をしています。地域の酒屋より、調味料の購入もしています。	開設当初から自治会に加入し、地域の一員として保健委員の役割を担っています。コロナ禍の中、祭りを含めて地域行事は全て中止を余儀なくされています。地域の酒店から調味料を購入したり、地域にある喫茶店(入居者の家族が経営)に出向いたりするなどの交流を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括が開催している、会議や研修に参加し認知症の専門施設として、意見をするなど、事業所の力を地域で生かしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、書面開催にて提供しているサービスの内容や、事故、取り組み等、報告を行っています。12月より、対面での開催を再開予定です。(食事のお試し会を行う予定)	コロナ禍の中、運営推進会議は書面での開催となっています。家族・地域包括・自治連会長等へ向けての事前の聴き取りは十分ではありませんが、議事録に毎月発行する広報誌「そよ風便り」を添えて配布することで、事業所の運営や取り組みを発信しています。12月より事業所での会議開催を予定しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種書類の提出や、運営推進会議の議事録提出の際など、直接担当者とお会いし、情報交換を行うなど、連携が取れるよう努めています。	運営推進会議の議事録は直接行政の窓口へ持参することで、顔の見える関係作りに努めています。地域包括とは良好な関係を築き、コロナ前までは地域包括が主催する地域ケア会議や研修会への案内を受けて参加していました。現在は、行政主催のケアマネジャー連絡会の研修の案内を受けて(オンライン開催)、できるだけ参加できるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については、防犯上施錠されていますが、それ以外は、身体拘束は家族様より希望があった場合でも行わないと施設として定めています。研修も定期的に行っています。	年2回「身体拘束等の適正化研修」を実施、職員全員(参加できなかった職員は書面開催)が研修の報告書を提出し、管理者はその内容に応じて指導を行っています。毎月、身体拘束適正化・虐待防止委員会を開催し、リーダー会議やフロア会議においても、身体拘束等についての話し合いを行うことで、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会の開催を行っており、ユニットの現状について話し合いを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられますが、制度について十分に理解しているとはまでは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	センター長が契約の締結や解約を行っています。契約前より、十分な説明を行い、不明な点がないようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ下では、面会を停止していたため、電話でのやり取りがほとんどとなり、家族様の意見が伝わりにくい環境でしたが、定期的に連絡を行い意見や要望をお聞きできるようにしていました。10月より、面会も再開しています。	コロナ禍の中、窓越しでの面会やオンライン電話での面会が中心となっていましたが、10月からは玄関や玄関前のベンチでの面会を再開しています。事業所内での様子が少しでも家族に伝わるようにと、毎月発行する「そよ風便り」を家族に送付すると共に、積極的に電話をして家族の健康に配慮しながら、入居者の報告と要望の聴き取りを行っています。また、会社が行う家族アンケートが年1回実施され、集約されたものが事業所へフィードバックされます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長や管理者が各フロアの会議に参加しており、また、日頃より、それほど広くない館内を歩き来しているため、比較的、意見を言いやすい環境になっています。	フロア会議以外に、各ユニットリーダーが、日頃から職員意見の聴き取りを行っています。また、風通しの良い職場のため、直接センター長や管理者へ要望を伝えることもあります。業務の見直しや物品の購入、ケアの改善に関してなど、様々な意見が言いやすい環境となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長やリーダーとの面談があり、職員がその時々のお考えを伝えられるようになっていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー会議にて、各ユニットの担当者より、職員の育成状況や勤務状況をセンター長に報告しており、新人の育成や、職員の課題や様子など、センター長に伝わるようになっていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は外部の研修や、会議等を通じ同業者と交流する機会がありましたが、しばらくコロナにより、交流は行っていません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人様と面談。事業所、家族様よりも情報を確認し、適切なサービスを提供し、信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも、入居前に面談を行い、要望をお聞きしています。入居にもこまめに連絡をとり、良好な関係でいられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ケアマネ、家族様、事業所との事前の連絡を通じ、どのようなサービスを本人、家族様が必要とされているかを確認し、自サービス以外も含め、利用者様第一で対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が何が出来て何が出来ないのかを職員間で共有し、出来ない事については、職員がサポートする形で、一方的にならないようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	先日まで、コロナの為、家族様の面会を控えていただいていたのですが、介護職員だけが支援を行うのではなく、日ごろの様子を確認やコミュニケーション等、ご家族様も利用者様を支えてもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為、途切れた形となっています。10月より面会は可能となりましたが、外出は今も禁止させていただいています。	新型コロナウイルス感染予防のため、外出の禁止を余儀なくされてきましたが、10月からは外出を再開しています。家族と食事に出かけたり、家族が経営する喫茶店に出かけたりするなど、感染対策に配慮しながら少しずつ支援が再開できるよう努めています。また、馴染みの訪問マッサージを再開したり、馴染みの歯科を受診したりするなど、関係継続のための取り組みも行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者様、それぞれの性格を把握しており、皆様がそよ風で穏やかに過ごせるようお手伝いをしたり、配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、他の施設への異動などで退去された利用者様についても、しばらくは家族、施設と連絡を行い、次の場所で穏やかにすごせるよう援助をおこなっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者様の援助を行ったり、コミュニケーションの中より、その思いを把握するよう努めています。	一人ひとりの想いの把握に関しては、以前にセンター方式C-1-2を実施したことで、若い職員が入居者の変化に気づくようになったり、観察や考察ができるようになったりしたこともあります。ただし、継続には至りませんでした。職員は、日頃のかかわりの中で得た情報を連絡ノートに書き込み、できるだけ要望やその想いを把握できるよう努めています。	入居者一人ひとりに歴史があり、その人となりを把握するために、家族などから情報を収集することは大切です。その情報をふまえた上で、日頃のかかわりの中で得た情報や気づきを1つでも多く書き留める(文字に起こすこと)ことが重要となってきます。再度C-1-2様式を活用して想いの把握に努められること、さらに得た情報を共有して、ケアプランに反映されることをお勧めします。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご家族様や、ご本人様、ケアマネ、利用中のサービス事業所より情報をお聞きし、シートを作成して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子より、気づいた事を職員間で申し送りをしたり、毎月フロア会議やアセスメントで分析したりと、一人一人の能力や生活の様子、個性を把握しそれぞれに合わせたケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の様子をもとに、カンファレンスを行い、医療面、家族様よりのご意見、介護職員の意見を踏まえ、新たな介護計画を作成しています。	半年ごとにアセスメントを実施、モニタリングは最長半年に1回行い、ケアプランの見直しを行っています。ケアプラン立案時の家族への意向確認は、カンファレンス開催前後、いずれかで聴き取りを行い、ケアプランに反映させています。医療との連携に関しては、往診時に医師の意見を聴き取り、議事録に残していますが、訪問看護からの情報は聴き取りにとどまっています。	コロナ禍の中、家族のカンファレンスへの参加は難しいと思います。カンファレンス開催前に、事前に家族の意向の確認を行い、ケアプランに反映される事をお勧めします。さらに、多職種連携を図る上で、医師・看護師以外にも歯科医や訪問マッサージ、薬剤師等の参加を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	数年前より、iPADによる記録となりましたが、記録が画一的になり、利用者様の細かい変化が、ややわかりにくくなってしまっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の日々の変化に対応し、適切なサービスが提供できるよう日々の変化に注意していますが、既存のサービスにとらわれないような支援？ができていないと言えない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、地域の人との関わりは減っており、施設内や、近隣の自然環境を生かした暮らしが中心となっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続する事ができる事について説明を行っており、センターと提携している医療機関を利用されている方の他に、今までのかかりつけ医も継続して利用されている方もおられます。	入居時に説明を行い、かかりつけ医を継続される方、協力医療機関へ変更される方がいます。基本かかりつけ医への受診の際は、家族対応をお願いしており、身体状況を書面にして、かかりつけ医に持参して頂く以外に、広報誌「そよ風便り」を添えて、日頃の様子を見て頂くようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職はいませんが、訪問看護ステーションと提携しており、週一回の体調管理と24時間体制での相談ができるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設よりサマリーを病院に提出したり、病院、家族様と連絡を取り、治療内容や経過の把握を行ったりしています。病院は地域連携室、センターはユニットリーダーと窓口をほぼ固定し、しっかりとした関係ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期に向けたセンターの指針について説明を行っています。また、時々、センター、家族様、医療関係者で話し合いを行い、今後の方向性の確認や共有化を行っており、看取りとなる方もおられます。	入居契約時に、「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」について説明を行い、同意を得ています。訪問看護とは24時間連携が取れ、随時相談を行うことができる体制を取っています。終末期に向けては段階ごとで、主治医より説明を受けています。さらに、都度カンファレンスが開催され、看取りの計画書を作成して、ケアの統一を図るよう努めています。	看取り研修を行い、看取りの実績もあります。医療との連携も図り、随時カンファレンスも開催されていますが、看取り期における看取りの同意書がありません。家族の意向は都度変化するものと思われるので、都度意向の確認を行い、同意を得られることをお勧めします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルの作成や研修はありますが、訓練という形では、最近できていない。事故は報告書に回覧し、どのような対応や行動をしたかを共有化しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の避難訓練とともに、消防署の立会いの下の訓練も実施を行っていますが、参加した職員中心で全職員が対応を身に着けているとは言えない。	消防署の協力を得て、年2回(内1回は夜間想定)消防訓練を実施しています。訓練には入居者も参加し、消火器の使い方の講習も受けています。備蓄品としては、発電機を備えており、定期的に業者による動作確認を行っています。貯水タンクとペットボトルの水、米やレトルト食品・缶詰などの非常食を1週間分、カセットコンロやランタンなども準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会の開催し、職員の対応や声かけが適切に行えているか検討しています。不適切なケースは、声をかけたり、センター長が面談を行うなど、利用者様の尊厳とプライバシーを守るよう努めている。	接遇研修を実施することで、一人ひとりの尊厳に配慮した言葉かけを行うよう心掛けています。不適切な声かけが見られた際は、各ユニットリーダーが注意すると共に、職員関係が良好なため、職員同士でも注意し合える環境となっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを確認するよう声かけを行い、自分の思いにそって自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝四時頃に起きて部屋で新聞を読み、お茶も部屋に持ってきてほしいというような要望をもっておられる利用者様もおられたりと、本人様の希望にそったペースで過ごせるよう援助を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、理美容をされたり、以前より着ていた洋服を家族様にお願ひし自宅よりもってきていただくなど、その人らしい装いができるよう支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べる力を職員は把握しており、個人毎に合わせた食事をリビングに隣接した台所で調理をしています。食器洗い、片づけ等に利用者様が参加してくださる事もあります。	ユニットごとに近隣のスーパーに食材の発注を行い、毎日冷蔵庫内にある食材を見て献立を決めています。素材を大切に、菜園で取れた柚子・レモン・みかんを使用するなど、季節感を取り入れた献立となっており、3食手作りで食事提供となっています。また、食器洗いや盛り付けなど入居者のできることを、職員と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やムース食。ダイエットの為の少な目の食事や補助栄養食を追加している方など、各利用者様の要望や状態に合わせた対応を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関である西沢歯科の指導に従い、各利用者様の口腔ケアを実施しています。医師の指示については、回覧し、職員で共有を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、日頃接する中で利用者様の排泄のリズムを把握しており、尿の頻度が多い利用者様は、回数を多く誘導するなど工夫をしています。	電子カルテと記述式の排泄チェック表を同時に活用することで、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。退院後はできるだけ早くおむつを外せるように取り組むことで、紙パンツに変更し、トイレで排泄ができるまでに改善された事例があります。排便に関しては、なるべく薬に頼らないように、牛乳・ヨーグルト・納豆・繊維質の野菜などを摂ることで、スムーズな排便につながるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜が多めの食事や、しっかり水分補給する事、規則正しい生活等、便秘の解消を心がけていますが、下剤によるコントロールも併用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では、職員より、利用者様に声かけを行い、希望される方の入浴を行っています。その日の気分により、今日はやめとくわと辞退される方もいらっしゃいます。週に2回ぐらいの入浴を基本としています。	午前午後を問わずに週2回入浴を楽しむことができるよう支援しています。身体状況を確認して、随時シャワー浴や清拭に切り替えるなど、臨機応変に対応しています。柚子風呂や入浴剤を使用することで、さらに心地よく入浴が楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間になったから一律で休んでいただくというのではなく、利用者様毎に、眠くなった時間に休まれています。朝、4時頃より起きて新聞を読まれているご利用者様もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より、薬の内容や副作用などを詳しく記載した処方箋を受け取るとともに説明を聞き、職員で共有化。ファイリングし、確認しやすく、また、受診時に持参できるよう工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、各利用者様の能力、好きなこと、得意な事、苦手な事等把握しており、各々に合わせた支援をしています。飲み物を提供する場合でも、コーヒー、紅茶、お茶を好みに応じてお出ししています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の希望に沿った外出支援は難しい。近隣の散歩などは行っていますが、コロナもあり、外出は禁止となっています。	コロナ禍の中、広い敷地内の散歩や玄関前のベンチでの外気浴、また菜園で育つ柑橘類の収穫などは継続しています。10月からは感染対策に配慮して、ドライブ(車内のみ)を楽しめるよう支援しています。受診時はあえて遠回りをして帰ってくるなど、少しでも気分転換を図ることができるよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っており、お金を所持されている方はありますが、使う機会はほとんどない状態となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を書いたり、電話をされたりしている方もおられます。現在は退去されましたが、携帯電話をお持ちだった方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は窓が大きく、障子もあり、明るく落ち着いた雰囲気となっています。部屋やリビングの窓からは四季を楽しむことができる景色を見る事も出来ます。館内の飾りは定期的に季節に応じた物に変更をしています。	各居室やリビングは窓が大きく、自然の採光を取り入れることで、居心地よく、開放感が味わえる雰囲気となっています。窓から見える風景もユニットごとで異なり、四季折々の風情を満喫できます。趣向を凝らした季節の飾りつけは、入居者と職員の協同作業の賜物となっており、五感に響く作品となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お食事を食べる席の他にフリーのソファも設置されており、楽な姿勢で外をみながらウトウトしたり、仲の良い方とゆったりと過ごしたりなど自由に使える工夫がされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より、本人、家族様に説明し、使い慣れた馴染みのある家具をお持ちいただいたり、本人や家族様に家具を配置していただき、過ごしやすい部屋となるよう配慮を行っています。	家族の協力を得て、使い慣れた筆筒やテーブル・椅子・ソファ以外にも仏壇等が持ち込まれ、自宅のような雰囲気を醸し出しています。自室で過ごされる方もおり、所狭しと馴染みのものを設置することで、居心地よく過ごせるよう配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム専用に設計された建物となっており、各所に手すりがあり、段差もなく、トイレも広く設計されており、車いすの方でもご自分で行きやすい等、出来るだけ安全に、一人一人が自立した生活が送りやすい工夫がされています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 2F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	令和3年11月7日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kaniz=true&JigyosvCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山から北、自然に囲まれた静かな地域に位置し平安より天皇にも愛された嵯峨野にございます。お客様が、ゆったりとした自由な時間・穏やかで安らぎにある生活を尊重し、その人の持つおられる能力を考慮し、心遣いと気配りを大切に、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。コロナ禍から中止を余儀なくされていますが、清涼寺で行われるお松明、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった季節のイベントから、バイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベントが、お客様の日常生活上の刺激、喜楽になり生活の質の向上に繋がっています。コロナ禍における感染予防対策としては、手洗い、消毒、マスクの着用その他各種制限を設けることでコロナ禍以来当センターとしては陽性者は利用者様、職員共に出ておりません。対策の徹底は継続するとともに来年に向け、イベント等できることをしっかりと増やしていくつもりです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1Fに同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	嵯峨野独自の理念があり、朝礼時に唱和常日頃意識し業務中にも新入職員に関連付けて話す等している。	1Fに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に長年所属、各イベントや行事の手伝いや協賛しています(回覧板新調、地図作成、学童用MAP作成、献血等)。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括開催(書面、ZOOM会議)、また参加し発言、地域での嵯峨野CCの力を活かすようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催ですが、定期的に運営推進会議を開催しサービス提供の内容、事例など報告し共有を図っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定められた書類提出は確実にいき、運営推進会議の議事録を、御担当者にお会いし直接渡し、都度情報交換を行う等の連携を意識しております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のみ防犯の観点から施錠しています 他拘束となる事項については、施設として行わないと決めており、職員にも全ての拘束について行わないように研修など含め常に共有、意識するようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を開催し、ユニットの現状、悩みなど含め話し合い、議事録を作成し回覧しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度使用の方が、増えてきており。ご家族からも相談があり情報に触れる機会、後見人様との話し合いも増えています、日常生活自立支援事業においては社会福祉協議会の専門員と連携し必要としている方へ認知症対応型生活予防介護えお知って頂き、支援の一助になるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	センター長が、基本契約、解約に参加、話し合いの時間を、利用前も含めとっている、CM,フロアリーダー、管理者にも参加促し共有事項としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	センター長は玄関対応を多く行い、日常的にコミュニケーションをとっている、また管理者、職員からも些細な用事でも連絡取り、情報交換頻繁に行い、信頼関係構築に積極的です。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長、管理者による個々への声掛けを基本とし話やすい声掛けやすい環境作りに努力しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一定期間毎の考課や契約更新時にセンター長含めて多人数による面談、苦手とする方には、個人面談等行い、キャリアアップに情報発信シンプルに行っている、事務所にもランク別の分かりやすい表があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	三役会議にて共有し状況確認を行い、方針、課題を個々職員に合わせ常に修正しています、研修も社内にて新入職員、中堅職員研修、細かくカテゴリー分けしてあります、また無料でURC主催の実務者研修受講も可能です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修・会議を始め、営業回り、定期訪問なども行い情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問面談や、実際ご家族と見学に来られ話し合う等、こちらから積極的に発信し行っています、そこから表情、話し方、要望を汲み取り不安の解消に努め実際のサービス提供に繋げています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が認知症対応型生活予防介護を知らない事が、多く傾聴しつつ、まず説明し知って頂き、入居についての不安、近所からの揶揄など悩みを聞き、入居云々抜きにして悩みを話せる場を設けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症対応型生活予防介護の初期理解からご本人様が本当に必要としているサービスか話し合い、現在使える別サービス併せて発信、本人、KP、他の家族様との意思統一をおすすめも確実に行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々気づきを基本とし、残存能力の維持、少しでも出来る事を職員全体で共有し支援していき、自身で選び自身で行うという観点を重要にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為の、各位自粛ありますが、離れていてもご家族も一緒にご本人の支援をしていると意識して頂けるように発信、受診の分担、外出、、イベント等協力頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	冠婚葬祭参加、お墓参り、投票、家族の経営する店に行く、友人知人との面会を行っています、またご家族との受診後に買い物、ドライブ等も推奨しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様個々のコミュニケーション能力、相性を鑑み席位置や、タイミングをみて職員が間にはいる等、穏やかに過ごせる環境作り、完全ストレスフリーではなく、人との触れ合いでの多少のスパイスも大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り対応させて頂いた、お客様ご家族が職員の支援を見て、自発的に地域支援に貢献したい等の手紙を書いて送って下さったり、世間話なども気軽に電話でするなどし、紹介で親族様の入居相談もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のヒアリング、入居後の職員全員のモニタリングと共有、そこから思い意向を汲み取るように努めています。また日常的に申し送りノートを使用し情報共有を重視しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりCM、本人様、ご家族、既存利用サービス事業所様からの聞き取りをし、情報とりまとめ職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の気付きを大切に些細な事でも職員間で申し送りを活発に行い、毎月のカンファレンスにて評価分析し再アセスメントを繰り返し、お客様の状態に応じた支援がチームで出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標を3~6ヶ月に設定し期間に合わせて介護計画の見直しを行っています。モニタリングについてはケアカルテと同期し毎日行う予定です、介護計画見直し時には往診主治医の意見も参考にしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテ記録、申し送りノート記録を使用し、日頃の気付きを重視し職員間で共有し対応しています、また状態変化が大きくある場合等の時に個別に簡易モニタリングファイル作り、個別に特化する方法も取っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ、昔なじみの医者利用、定時電話連絡、後見人についての相談、金銭管理等、日々相談を受け、嵯峨野CCで出来る範囲でご協力させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園での高齢者向けの体操教室やカフェの開催があり、健光園様のカフェ利用などもコロナ禍以前に利用しておりました、また嵐山寮、ご家族経営のカフェがあり地域資源の利用再開を考えております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、医療連携、かかりつけ医の継続可能な事の説明した上で、協力医療機関への変更を選択肢として挙げています。専門医受診継続については、嵯峨野CCとご家族と分担し協力体制を作るなどしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH単体の為、常勤の看護師はおりませんが、訪問看護ステーション十和様と提携しており24時間体制での相談を可能としており、毎週土曜日の訪問を受け情報共有相談を確実にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のサマリー提供、病院医師、看護師、SW、ご家族、嵯峨野CCと情報交換密に行い、治療内容、経過確認を正確に行い、早期の退院を実現するため嵯峨野CCより積極的に各位に発信し態勢を整へて受け入れております、嵯峨野CCは退院受け入れ時対応が早いと評価も頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応・急性期における医療連携指針」を作成し意向の確認及び同意を確実に得ております、また看取り実績も増えてきており、終末期などの研修時に事例の共有、看取り時、看取り後の職員のケアについても話し合いを設けています。実際終末期時、ご家族と都度、相談の機会設けています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを定めており事故、急変を想定した研修も行っております、実際の事故発生時に48時間以内に報告書作成報告、カンファレンス開催し対応や行動がどうかだったか共有し蓄積、適切な対応が出来るように訓練しています。(重大事故時は24時間以内)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと年二階、日中、夜間を想定した訓練実施しています、自然災害時の行動マニュアル作成しており研修も行い、各種備蓄品もあります、(非常電源もあります)。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年度前より、年間研修計画作成、コンプライアンス担当へ提出、個人情報、プライバシー保護研修実施しています。職員にはトイレ誘導、排泄、入浴時、居室での更衣、おむつ交換時等プライバシーに配慮したケアの意識、不適切な声掛け支援がないか相互に声かける環境作りに努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様を中心に思い意向を汲み取り、出来ない事を手伝うように心がけ日常生活での自立を支援し自己選択、自己決定を大切にしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様個々人の生活リズムを重視尊重しています、また生活共同を考え嵯峨野CCでの生活時間サイクル提供し、ある程度籠りきらない、廃用性にならない、昼夜逆転にならないように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の好みに合った服装を選んで頂き、選択が難しい方には、ご家族や写真、好みの色などから服装を職員が選択して着て頂くなど支援しています、また月一度の訪問理容を利用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嵯峨野CCでは厨房はなく、職員が三食個々の得意分野に合わせ毎日嗜好の料理提供、パン食のひももあります、食材は、馴染みの商店より配達いただき、お客様には下処理、盛り付け、拭き物等を一緒にしております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様嚥下能力、体重、既往歴に合わせ食事量、形態(刻み、ミキサー、ムース食等)や、トロミを強度を変え提供、水分取りにくい方等には、OS1や、ポカリ、やや甘い物など対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	西沢歯科と提携連携し月二階往診いただき歯科医師、歯科衛生士の指導の下、お客様の口腔ケアを実施しており、口腔衛生加算も取得しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄において、おむつ使用を極力避け、排泄時間を記録しパターン把握により適宜トイレのお声がけ誘導によって尊厳と羞恥心に配慮しつつトイレでの排泄支援に努めております。寝たきり座位がとれない状態時におむつ使用しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動と介助にて歩行できる方には、極力車イス使用せず、歩行支援。食事には、乳製品、納豆、野菜等便通促す食材提供、一日掛け水分をしっかり摂って頂き便秘解消を心掛けています。また下剤も医師の指示の下併用しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回入浴を基本に、お客様の要望や様子を伺い、また失便時、他、臨機応変に対応しています。季節のお風呂、好みの入浴剤使用、好みや皮膚症状を考えたソープ使用、ヒートショックにも注意をはらいつつ入浴を楽しんで頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様自身で選択し居室にて休息しておられます(居室移動の声掛け含む)、能動的にされない方には、声掛けし居室等誘導や、食後等タイミングを見計らい休息誘導しています。入床、起床も同様です(時間は生活リズム崩れない範囲で個々に合わせております)。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院内、外調剤担当より薬剤が届き処方箋を受け取りお客様一人づつの説明を受け記録と共有を行い、処方箋は、ファイリングし管理、確認が簡易に出来るようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の残存能力を把握し思い意向を汲み取りつつ得手不得手を考慮し個別支援を行い、食物の嗜好、読書等の趣味等を大切にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ですが、四季を感じ、お日様を浴びる事によりセロトニンが出る等考え、外気浴を積極的に行い近隣へのドライブも各フロアにて行っております(受診帰りも遠回りして広沢の池まで行くなどしています)今後、お買い物、外食も事業部と相談しつつ行います。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は入居前よりご家族と相談し小銭以上の金額は、施設管理させて頂いていません、現状お買い物レクや、施設内販売がないので、使う機会はありません。夏祭りレクなどでは、引換券使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能動的な電話使用は、ありませんが、電話の要望にお応えしています、手紙を書かれる方もおられます。受動的には、LINEテレビ電話、普通電話多くあり、手紙も多く届き楽しみにされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒さ暑さありますが、一定時間毎に換気を欠かさず実施しています、空調も管理し冬季の居室、リビングの加湿を行い過ごしやすい環境創出、また嵯峨野CC日当たりも良く自然光と暖色の内装でやさしく温もりある空間となっております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアお客様個々と関係性に考慮した席配置と自由に頂くソファ配置、大きな窓から自然の眺めや大きなテレビを楽しんで頂けます、また気心した仲のいい方との過ごされる等されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族へ新しい物を購入をすぐせず、馴染みの品を持って来て下さるようお願いしております、安全面の配慮はしますが自由な馴染みの香りある安心する居室を少しずつ作って頂いています(お仏壇持ち込まれる方もおられます)。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインに基づいた施設作りとなっており、段差少なく手すり配置、トイレも広く設計されています(19年前のユニバーサルデザインか新設の福祉施設よりやや見守りしづらい作り浴槽の段差もあります)。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 3F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	令和3年10月31日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhvu_detail_022_kaniz=true&JigyosvCd=2670700349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや北にあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持つおられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、清涼寺で行われるお松明、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった季節にあったイベントから、バイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベントがセンターで過ごされる利用者様の日常生活に楽しみになっており生活の質の向上に繋がっています。コロナ禍における感染予防対策としては、手洗い、消毒、マスクの着用の他各種制限を設けることでコロナ禍以来当センターとしては陽性者は利用者様、職員共に出でおりません。対策の徹底は継続するとともに来年に向け、イベント等できることをしっかりと増やしていくつもりです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1Fに同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて毎朝、理念を唱和し、共有している。	1Fに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	そよ風便りを月に1回地域へ向け、発行している。発行ペースと内容を以前より充実させています。面会の機会が減っている中で普段の様子を知って頂く重要な内容となっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会を兼ねた家族会等以前やれていた取り組みがコロナ禍以降難しくなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事、事故、課題等を報告・相談させて頂き、他施設の立場や地域の方からの視点で意見を頂き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加したり、役所に事故の報告書を直接届けたり、ケアマネ連絡会に参加したりして、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を目的とした行為はしていない。玄関は防犯上オートロックとしている。ユニットの入り口に手動の鍵は概ね開錠し、入居者様の状況に合わせて一部施錠する等工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議で学ぶ機会を設けている。互いに注意し合えるよう、職員同士の関係を良くし、風通しの良い雰囲気作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で学ぶ機会を設けている。まだ十分とは言えないため、さらに職員の知識を増やしていきたい。制度を利用されている利用者様の対応を通じて学んでいる部分もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に面談をし、不安や疑問点なども伺い説明をさせて頂き、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時のご意見を職員・管理者で共有し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター内では毎月のフロア会議や日々の業務の合間に、よく意見交換がなされており、全体に通じる提案などは全体会議で議題にしている。センターと会社は事業部を経て相互に意見話し合いをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員補充など職場環境の整備に向けて努力している。会社としてもリフレッシュ休暇を導入し環境・条件の整備に努めているが、十分に活かせていない部分もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けているが全員が対象ではないので、事業所独自で全体会議の場でも研修を行っている。他、ユニット内でチームとして新人を育てていく環境を整えたり、個人的にも研修に参加できるよう案内している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での事業所間交流の機会は各種会議等、人員不足の際のヘルプフォローで機会を作れている。他法人との交流は充分とは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調面談にてご本人とお会いし、思いに耳を傾けている。入居後もご本人からよくお話をお聞きし少しでも不安を和らげるよう職員間で情報を共有しご本人の安心に繋げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から、できるだけ多くの情報を聞き出し信頼関係の構築に努めている。担当ケアマネとの情報交換も欠かさないようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討された経緯、何が一番困っているのか、何が一番不安なのか、等を聞き取り、最善の支援ができるようにしている。他拠点の別サービスとの横の繋がりがあるので柔軟に対応できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事をしたり、一緒にお茶を頂いたり会話したりしながら、一日を過ごして頂いている。できることはして頂いて、できるだけ自分で決められるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事であってもご本人の様子や変化をお伝えし、認知症についての助言もしている。どのように支えたいかを家族に聞きケアに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙、お届け物等はお本人にお伝えしている。友人、知人の面会や馴染みの場所への外出は現状充分とは言えない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話によく耳を傾け、関係を把握し、個々の性格を見極め、職員で意見を共有し、利用者様それぞれが本人らしさが出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であってもイベントをお手伝い等参加して下さるご家族もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に把握に努めている。ご自身で思いを表すことが困難な場合が少なくないが、利用者様の様子や発せられた言葉などを記録に残し、カンファレンスで本人本位の視点から職員で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後ともに、ご本人やご家族や以前の施設等から情報収集をし、また、入居後もご本人からお聞きしたことを職員間で共有し、ご本人らしい生活をして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の一人ひとりの様子を、申し送りノートや個別の経過記録へ記載したり、口頭で申し送ったりすることで職員全員が把握できるようにしている。また、気になったことは「気づき」としてノートや口頭で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、職員でカンファレンスを行い、ご本人のしたい事は何か、その為に何を支援すべきか、ご家族の意向も含め話し合っている。家族や連携機関の方のカンファレンスへの参加が課題となっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や対応を記録し申し送り、情報共有している。職員は、気づきがあった時にその場の職員同士話し合いケアの工夫をしており、その方にとってのよりよいケアの実践と見直しを日々行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の業務フロー・ケアプランは決まっているがその日によって利用者様の状態が異なることも多いので、職員がその場で判断し臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は地域イベントへの参加も行っているが今年の状況下では難しく地域との繋がりも希薄になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院と連携し、受診できる環境を整えている。かかりつけ医を希望されている方は受診を継続できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の往診(隔週)や訪問看護(週1回)の際に随時相談し、指示を頂き対応している。24時間相談できる状態にあり実際に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院やご家族と連絡を取り情報交換を行っている。また退院後も病院側からサマリーを頂き、退院後の生活に支障のないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や早い段階からご家族に終末期について考えて頂くよう促したり話し合いの場を設けたりしている。また、提携病院とも話し合いの場を設け、医師、看護師、ご家族、場合によっては職員も含めて終末期のケア方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	十分な訓練の機会を用意できていない。実際の経験を積むことで実践力を付けていっている状況。対応に関しては定期的に職員間で確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っており、消防署の方にも来て頂いている。全員が同時に訓練を受けられないので受ける人数や訓練の機会を増やしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、接遇マナーについて全体で勉強会をしたり、チェックリストにて自己点検、それをユニット会議で確認し合ったりすることで共通意識を高めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方その方に応じて、決めていただく、選んでいただく、こちらが察知する、などして支援している。その方の表情などをよく観察して思いに添えているのか考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人おひとりによって、またその日その時によっても、どのように過ごされたいか異なることを職員全員が理解し、希望にそった支援をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び、整髪など支援している。月に1度の美容院でカット、希望によりパーマ、毛染めにも対応している。化粧や外行きの洋服を楽しむ機会はあまり持っていないので増やしたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや特徴など職員が把握しており、食べやすいような提供方法の工夫、季節を感じられる食材を取り入れる工夫などしている。できる方には盛付や配膳、片付けなどほぼ毎日して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態など一人ひとりに対応した提供方法をとっている。食事や水分が入りにくい場合は、好きな物や摂りやすい物を一人ひとりの特徴に合わせて提供して栄養が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と夕食後は全員行って頂けるように支援している。日中は口腔内に食べ物が溜まりやすい方などはその時々に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なタイミングでのトイレ誘導やパット交換を行い、自立支援やパットの不快の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ食事(便秘の方にはヨーグルト・牛乳・納豆・繊維食料を積極的に摂っている)や運動にて対応、次いで主治医に相談し内服での対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人あたり週2回程、時間帯は主に午後設定させて頂いているが、その中では時間の制限はせず、ゆっくりくつろいで頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分で入床・起床できる方についてはご本人の意思に合わせている。ご自分で表現できない方については表情や歩き方等からのサインを読み取り、お疲れの時は休んで頂くなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を読み目的や副作用、用法や用量などについてよく認識するよう努めている。服薬時は十分な注意を払い、間違えないよう、日付や利用者様名を声に出して確認している。服薬後の様子は往診にて随時報告・確認できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	文化祭等での作品の制作やき活きとした姿を引き出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や外気浴をしているが、遠出や個別ではなかなか出かけられていない。コロナの状況が刻一刻と変化している中、対応も柔軟に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理している。施設のイベントや近所のお祭や個別レクなどで買い物する時にはご自分で買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やりとりをされる際には電話の隣で見守りしたり年賀状の返事を書かれたりする際の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、季節の果物を収穫したり、各居室の表札に月替わりで変化をつけたりして、季節感を感じて頂けるようにしている。一人ひとりの生活に合った動線の確保や家具の配置なども工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファでゆっくりされたり、仲の良い方同市でおしゃべりされたり、基本、皆様思い思いの場所でくつろいでおられる。必要な場合は、職員がフォローに入り、一人ひとりの居場所づくりの支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っておられた家具を継続して使っておられたり、思い出の品など飾っておられたり、馴染みのものを持ち込んで居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今日の日付、今月の行事予定、場所の案内などを表示することでご自分で日付などを確認できる支援ができています。自由にエレベーターで各フロアを行き来して頂いている方もいます。		